



園だより

文京区立第一幼稚園
令和6年度3月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

豊かに感じ、伝え合う子供たちに

園長 田村 秀子

日差しが明るくなり、菜の花が咲き始めました。子供たちが植えたチューリップの芽も伸びてきています。土の庭には紅白の梅の花が満開となり、よい香りが漂っています。子供たちは「これ、さくら？うめなんだ」「白とピンクがあるんだね」「なんかいい匂い」「前に実が落ちてたよね。これが花だったのか」など、いろいろ気付いたり、思い出したりしています。以前、その場所で楽しんだことを覚えているってすごいですね。よく見ると、小さいメジロが来て、枝に止まり、花の蜜を吸っていました。親子で歩く道すがら、春を見つけて伝え合うのも素敵ですね。

さて、保育室には、かわいい手作りのお雛様が並び始めました。年少組は好きな模様の千代紙を選び、折って着物を作りました。顔も自分たちで描き、かわいらしいお雛様が出来上がっています。年中組は紙コップを使った立体のお雛様です。千代紙の着物を両面テープで立体の面に貼り、こちら表情豊かなお雛様ができました。扇子や笏^{しやく}、金屏風やぼんぼりも素敵です。年長組はびんの体に白い球形の頭をつけ、日本風の布の中から好きなものを選んで人形に着せました。着物地や和風の布をたくさんくださった保護者の方もいらして、子供たちはどの布にしようか、嬉しそうに選んでいました。重ね衿に様々な色を入れたり、髪飾り、刀、ぼんぼりやひしもちなどのごちそうを作っている子もいます。指先を使って細かいものを集中して作る姿を見ていると、日本の伝統文化が子供たちの中に育まれていることを感じます。これからも自分の手で創り出すことを楽しんでほしいと思いました。

25日には年長組が誠之小学校の1年生の教室へ行き、ランドセルを背負う体験や鉛筆で書く体験をしたり、折り紙を教えてもらったりしてきました。1年生が優しく関わってくれたことが嬉しくて、小学校が楽しみになったようです。1年生の先生に感想を聞かれると、手をあげて「えんぴつで書くのが楽しかった」「ランドセルが嬉しかった」などと話す姿もありました。初めて会った人達の前でもしっかりと話すことができ立派でした。園に戻ってから書いたお礼の絵や言葉にも、自分が感じたことや嬉しかったことが表現されていました。日々の生活の中で、感じたことや考えたことを言葉で伝え合う体験を通して心を耕し、伝わる喜びを感じ、自信をつけてきたことが分かります。年少組や年中組も、年長組にありがたいの気持ちを込めて、お別れ会の招待状を作っていました。

今年度の幼稚園評価アンケートでは、保護者のほぼ全員の方から回答があり、全ての項目で「そう思う」「ややそう思う」という肯定的評価が90パーセント以上でした。「子供たちは園が楽しい」「保護者が子供たちの成長を感じることができる」「園では自然と関わる体験を通して豊かな感性をもち、小動物や草花に心を寄せる子供を育てている」などの項目が高い評価となったことを嬉しく思います。次年度は園からの発信や保護者・地域からの受信をさらに工夫すると共に、安全面での取組や様々な保護者への丁寧な対応と説明を心がけたいと思います。

3月は子供たちの成長を次につなげる大事な時です。一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。保護者、地域の皆様には、今年度も温かいご協力やご支援をいただき、ありがとうございました。